

# 神戸新聞

2月25日(土)

東日本大震災の被災者らによる作品が並ぶ「つくることは生きる」と「展が24日、神戸ハーバーランドの「umie」(ウミエ)で始まった。亡き家

## 神戸

族への追慕や自宅再建の願いなどの思いが詰まった手芸作品が、被災者の笑顔の写真とともに展示されている。3月3日まで。(小西隆久)

# 願う復興作品に込め

## 東北の被災者の手芸展示

アートを通じて被災 集まった子どもたちがうになった。地支援をするため、2 夢中でマスコットを作 津波で自宅を失い 011年3月に発足し 始めた。その輪が広 「針も何もかも流され 任意団体「ARTS がり、それまでぼうぜ た」と目に涙を浮かべ りの布や糸で縫った 2時にマスコット作り for HOPE んとしていた大人たち る女性、最愛の妻を亡 マスコットや造花など などを体験するワーク (アーツフォーホー も針や糸を手取るよ くし生涯で初めて針を 約2000点を展示。 ショップもある。

## 写真、メッセージ添え2000点

「来年こそマイホームが出来ますように」などの願いがこめられたメッセージカードや、熊本地震の被災地で撮った笑顔の写真もある。

高橋さんは「カラフルで個性豊かな作品を見れば、災害だけでなく、人生のさまざまな難局に苦しむ人に勇気と元気を伝えられるはしてほしかった」と高 ず」と話す。 観覧無料。2月25、26日の午前10時〜午後

「(事務局・東京都)の主催。これまで東北3県や広島などで開かれ、関西では初めて。

創作を通じて病院で入院患者らを励ます活動を続けていた代表の高橋雅子さん(60)東京都IIが始めた。きっかけは阪神・淡路大震災。当時高橋さんは美術館の学芸員だった。「私に被災地で何ができるのかと考えたが、あまりの衝撃で動けなかった」と振り返る。

東日本が起きると「今度は後悔したくない」と宮城県南三陸町へ。避難所の片隅で布と針を並べている。



東日本大震災の被災者らが手がけたマスコットと高橋雅子さん(左)自宅再建の願いが込められた作品(右)津波で妻を失った男性が初めて作った魚のマスコット(下)いずれも神戸市中央区東川崎町1